

7 熱環境から見た都市の気候解析

現象としての気象（気温、風速など）、要因としての地表面被覆や大気熱負荷量の分布などを、目的に応じて地図上で重ね合わせることで、検討すべき問題が見えてきます。例えば、熱帯夜日数の最も多い地区は東京でいえば大手町などの都心部ですが、影響を受ける夜間人口の多くは周辺部に移っています（図6）。熱帯夜の緩和に向けた対策を効果的に行うには、夜間の熱負荷の発生量が多い都心部のみでなく、周辺の住宅地などにも積極的に対策を講じる必要があります。

その際、有効となるのが下のような気候解析図です。ここでは例として夜間（22:00）における大気熱負荷量（顕熱）の多い地区を風況などとともに示して

います。これらを重ね合わせて見ることで高温暴露人口が多く熱負荷の高い地区から対策を講じることが効果的と考えられます。

すなわち問題の明確化とこれに対処するための基礎情報の解析により、ヒートアイランド対策の課題を明確にすることができます。

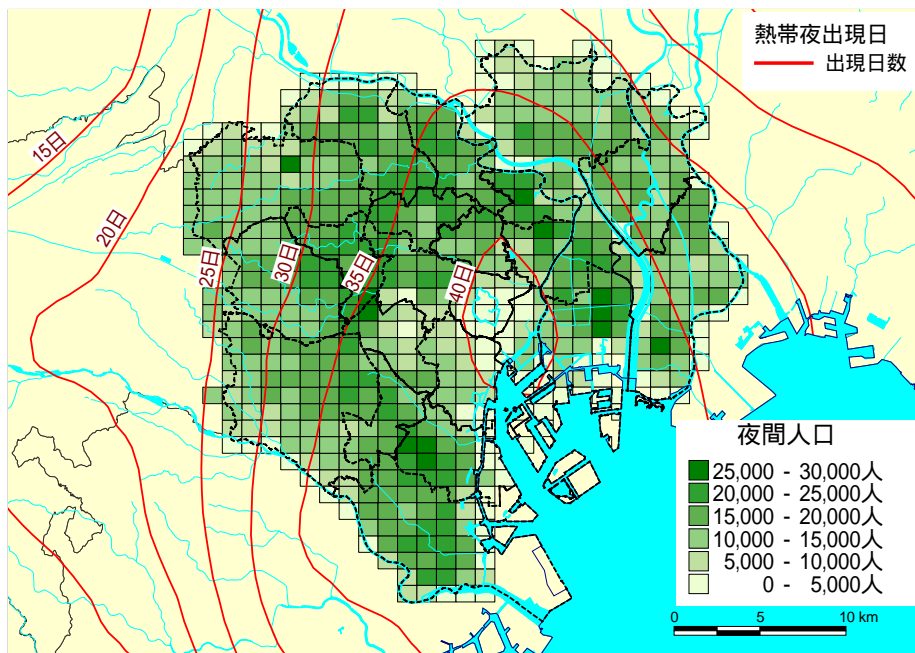


図6 夜間における熱環境問題図の例(H7国勢調査、大気常時監視の気温データ)
注)人口のデータは東京23区のみ表示

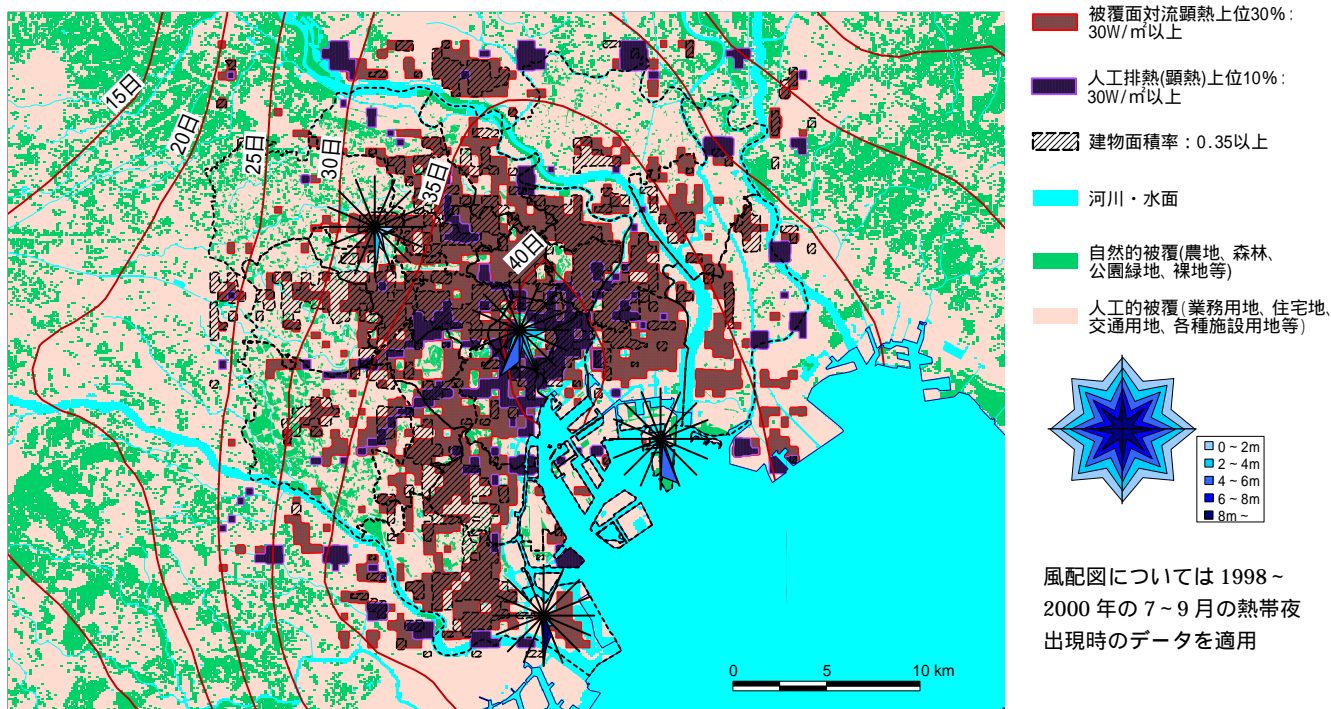


図7 夜間(22時)を対象とした気候解析図の例